

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

千葉県柏市

○学校名

柏市立柏第四中学校

○学校のURL

<http://www.dai4-j.kashiwa.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1 学年 4 学級、 2 学年 4 学級、 3 学年 4 学級

【特別支援学級】 2 学級 【合計】 1 4 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 3 8 8 人（平成 2 7 年 1 1 月 1 日現在）

（内訳： 1 年生 130 人、 2 年生 127 人、 3 年生 131 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成 2 5 ・ 2 6 年度人権教育推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

- (1) 【自 学】自ら学び、自らを高めようと進んで学習する生徒
- (2) 【礼 節】礼儀正しく、自他共に大切に思いやりのある生徒
- (3) 【鍛 錬】自らを律し、自らを鍛えるたくましい生徒

【人権教育に関する目標】

「自他を大切にする人権意識の高揚を図るための教育活動の在り方」
～生徒の自己有用感・自己肯定感を育てる授業を目指して～

○人権教育に係る取組一口メモ

授業や地域、関係機関との連携を通して、人権感覚豊かな生徒を育てていく。

○人権教育にかかる取組の全体概要

- ア) 差別や偏見に気づき、それを許さない学校体制づくり
 - イ) 学校教育全体を通じた道德教育の充実
 - ウ) いじめ等問題行動の早期発見・即時対応
 - エ) 家庭や地域と連携した取組による人権意識の高揚
- 上記ア)～エ)の実現に向け、以下の活動を実施する。
- ・ 人権を扱った教材を道德の授業で計画的に取り上げ、生徒の人権意識を高めるとともに、教員の指導力の向上を図る。
 - ・ 教科指導において言語活動を重視し、お互いに認め合える関係づくりを図る。

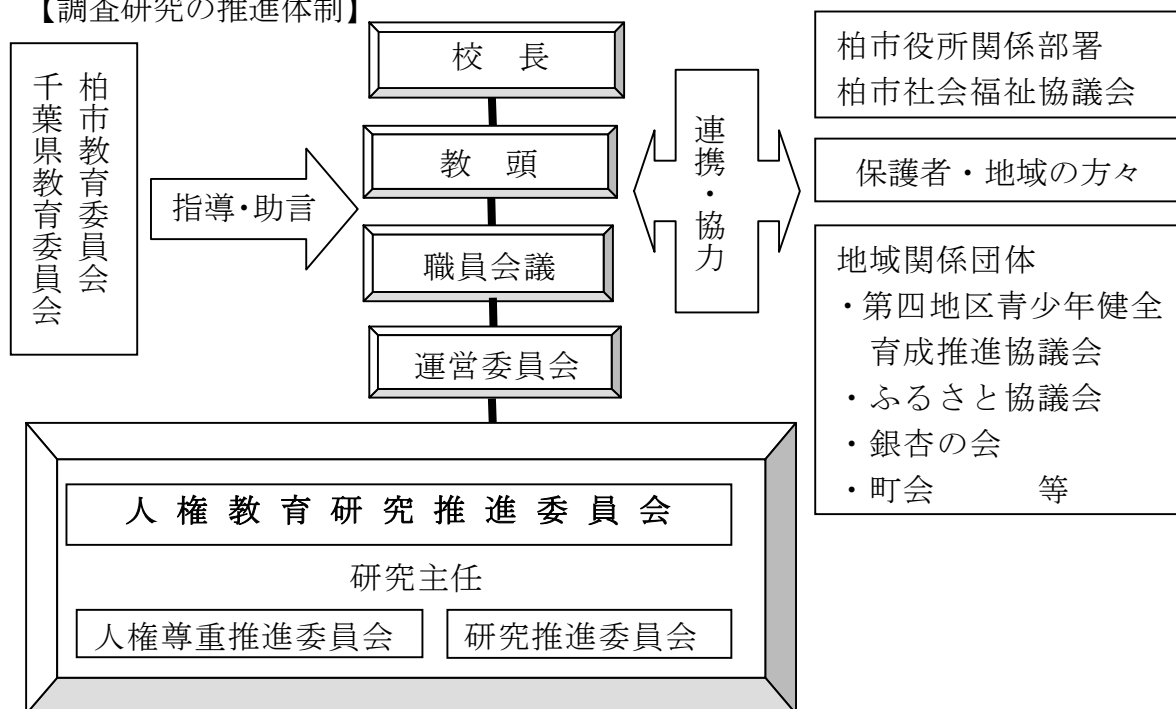
- ・ 人権教育についての講演会を行い、意識を高める。（対象：教職員・生徒）
- ・ 1学年中心に例年行っている社会交流体験や2年生の職場体験の取組をより充実させる。
- ・ 青少年健全育成推進協議会や学校支援協議会等との取組に生徒を積極的に参加させる。
- ・ 地域のお年寄りに向けてのクリスマスカード作りや花鉢配付、吹奏楽部の定期演奏会等、学校から地域に向けた取組を充実させる。

3. 特色ある実践事例の内容

本校の生徒は、全体的に明るく素直で、部活動や行事にも熱心に取り組み、比較的落ち着いた学校生活を送っている。しかし、自分に自信が持てず、人間関係づくりの苦手な生徒は多くみられる。また、友達との人間関係上の問題や自尊感情、自己肯定感の欠如から長欠となったり、相手を傷つけてしまうような心ない言葉かけをしたり、自己中心的な言動をとってしまったりする生徒も少なくない。

相手の立場になって思いやりある気持ちで接することは、人として最も大切なことであるが、本校の生徒たちはそれを十分学んでいるとは言えず、人権教育を充実させ、よい人間関係の構築に取り組んでいくことが必要であると考え。学校教育活動全体を通して、校内では仲間との関係を見つめ直す機会を持ち、家庭や地域においては高齢者や障がいのある方たちとの関わりを意図的に持たせながら、感謝や思いやり、いたわりの気持ちを育て、自他を大切にする人権意識の高揚を図っていききたい。また、学校の基盤となる授業を通して、生徒の自己有用感、自己肯定感を育てていくために、生徒が意見を発表し認め合える関係を話し合い活動を通して築いていこうと考えている。

【調査研究の推進体制】



1 実施計画

- 4月 3日 本年度研究テーマの設定、人権教育指導計画作成
4月 4日 校内研修会（人権教育に関する授業について）
5月 1週 教科部会（授業者の選出、内容についての話し合い）
6月17日 校内研修（人権課題に関する道徳）『子どもの権利条約』
6月 中旬 いじめアンケート実施
7月 9日 情報モラル集会（講師：警察サイバーボランティア）
7月21日 吹奏楽部サマーコンサート（地域との交流）
夏季休業中 1学年社会交流体験（ボランティア体験）実施
8月 5日～7日 リーダーキャンプ
主催：青少年健全育成推進協議会
8月11日 第18回夏季講座『人権・同和教育』へ参加（研究主任）
8月21日 授業錬磨での指導案検討会
小中合同夏季研修「障がいのある児童・生徒の理解」
講師：柏市手をつなぐ育成会
8月23日 クリーン作戦
主催：銀杏の会（柏第四地区学校支援協議会）
オーバーナイトハイク
主催：柏市青少年相談員連絡協議会
9月24日 薬物乱用防止教室
講師：柏市補導センター
10月 1日 1学年社会交流体験（ボランティア体験）発表会
11日 三世代ふれあい運動会
主催：青少年健全育成推進協議会
10月23日 人権を意識した教科指導の授業錬磨（英語、数学、理科、道徳）
10月26日・27日 研究授業（家庭科、社会）
10月30日 第48回全日本中学校道徳教育研究大会（研究主任）
11月 8日 音楽の集い
主催：青少年健全育成推進協議会
11月13日 東京都公立中学校長会人権教育部会視察
11月26日・27日 職場体験学習（2学年）
12月 クリスマスカード作りボランティア活動
12月19日・21日 花鉢配付ボランティア活動（配付先：高齢者宅）
1月21日 1学年認知症サポーター講座
1月26日 人権意識調査アンケート実施
2月 9日 武蔵野市副校長会視察
人権教育に関する道徳授業の展開（障がい者の人権について）
3月 5日 3学年性教育講座
講師：助産師
3月 9日 2学年赤ちゃんだっこ体験
次年度への課題と反省のまとめ

2 実践

(1) 研修

言語活動の指導を通じた人権感覚を育む授業・道徳や人間関係づくり、特別支援教育を実践し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる人権感覚豊かな生徒の育成に努める。

① 授業研究（道徳・各教科）

発表・聞く態度に対する指導や小グループでの活動、助け合い学習等を取り入れ、言語活動を重視しながら人権尊重の精神の涵養を目指した授業を展開する。

② 小中学校合同研修会

具体的な事例をもとに障がいのある児童・生徒の理解を深め、子供や保護者への接し方を学ぶ。



授業研究



小中学校合同研修会

(2) 地域とともに歩む学校づくり

生徒が生活の基盤を置く家庭や地域において、学校における学習の成果を肯定的に受けとめる環境を整え、人権教育の成果を知的理解の深化や人権感覚の育成へと結びつける。家庭や地域等の身近な人々との連携を通して、生徒と保護者、地域住民等が一緒になって活動し、人々の間に人権尊重の意識がより一層広まるよう努める。

① 柏第四地区青少年健全育成推進協議会との連携

柏第四地区（柏第八小学校、名戸ヶ谷小学校、柏第四中学校）内の青少年関係機関及び団体相互の連絡調整を行い、地域ぐるみの青少年健全育成を推進し、青少年の非行防止と健全育成を図る。



リーダーキャンプ



三世代ふれ合い運動会



音楽の集い

② 柏第四地区学校支援協議会（银杏の会）との連携

柏第四地区学校支援協議会「银杏の会」がコーディネートした学校と地域との連携による取組を行う。



クリーン作戦



花鉢配付運動



囲碁・将棋部の交流活動

③ 柏市青少年相談員連絡協議会との連携



オーバーナイトハイク 柏駅～市内～柏中学校（28.3km）

④ 学校から地域へ（交流活動）



サマーコンサート



ふるさと協議会文化祭での演奏



部活動見学会

（3）体験活動の充実

体験的な学習を通して、学んだことを生かし、人々とのふれ合いから社会人としての生きがいや責任、ルール・マナー（規律、礼儀、言葉遣いなど）の大切さを学ぶ。



職場体験

夏ボラのススメ

学校	団体	内容	活動日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月10日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月11日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月12日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月13日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月14日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月15日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月16日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月17日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月18日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月19日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月20日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月21日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月22日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月23日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月24日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月25日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月26日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月27日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月28日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月29日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月30日
柏市立柏中学校	吹奏楽部	吹奏楽部	7月31日

夏ボラのススメ

（4）キャッチコピー&ポスター



(5) その他

- ① あいさつ運動
- ② 駅伝選手へ激励のための横断幕づくり
- ③ 子ども子供司書の取組
(人権に関する本の紹介：学級への掲示物作成、ブックトーク等)
- ④ 講演会 (情報モラル集会、薬物乱用防止教室)
- ⑤ 校内整備 (清掃活動の充実、掲示物の工夫等)

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

【実践上の課題】

- 生徒同士の関係の中でトラブルなどの諸問題に対して話し合いながらよりよい解決方法を見つけたり、誤りを正したりするなど、お互いに高め合おうとする意識に欠ける生徒がみられる。
- 次ページに示した【人権意識調査】からは、「自分の良いところを知っている」、また「自分を大切にしながら生活している生徒が少ない」ことが明らかとなった。
- 授業について生徒は、次のようなことを望んでいる。
 - ・ 自分の考えや他の人の意見を聴いて、考え方を共有できる授業。
(参加体験型学習、話し合い活動、グループワーク)
 - ・ わからない内容について細かく丁寧に教えてもらえる授業。
(先生若しくは生徒に気軽に聞ける、教え合い学習)
 - ・ あいさつや返事、授業中の規律を守り、授業に集中できる授業。
(落ち着いた授業環境)

授業を理解したいという気持ちが強く感じられ、ただ先生の話聞くだけの授業よりも、自分の考えを発表し、相手の意見を聞いた上で新たな発見ができる授業を求めている。

【課題解決策】

- 教員の授業力の向上のためにも、人権教育で推進している参加体験型学習や話し合い活動や教え合い活動を授業に取り入れることが必要不可欠であると考えられる。人権教育で推進すべき参加体験型学習や話し合い活動の充実を更に高め、自分の意見を正しく伝え、お互いに高め合っていけるような人間関係を築けるようにしたい。
- 思春期を迎え、生活が自分よりも友達優先になっていると考えられる。今後に向けてふだんの授業や学校行事などを通して、生徒の活動を評価し認める機会を増やすことや、充実感や達成感が得られるような活動を数多く取り入れていくことが重要であると考えられる。

5. 実践事例の実績、実施による効果

授業や地域活動における様々な人々との関わりから仲間との関係を大切にし、協

力したり相手の長所に目を向けようとしたりするようになってきた。また、学校で友達と会うことが楽しいと感じている生徒が8割以上いるのは、望ましい友達関係を築けているからであると考えられる。

【人権意識調査】 全学年対象 345名回答 (%)

(色付きの項目は1と2で80%以上の生徒が回答したもの)

番号	内 容	1 そう 思う	2 少し 思う	3 どちら もい えない	4 あ ま り 思 わ ない	5 そ う わ い ない
1	自分の良いところを知っている (気づいている)	17.1	37.1	32.2	6.7	5.8
2	自分のことを大切に生きて生活している	25.6	33.6	29.6	5.8	3.8
3	友だちの良いところから学ぶことがある	56.5	28.4	9.3	2.9	1.7
4	自分と同じように、相手のことを大切に している	45.2	37.9	13.0	2.0	1.2
5	周りに困っている人がいたら助けるこ とができる	33.6	42.8	17.7	2.6	1.7
6	考えや感じ方には、人それぞれ違いが あって良いと思う	74.5	15.7	7.0	0.9	0.9
7	人権の大切さについて、憲法や条約な どの法律があることを知っている	53.3	29.6	12.5	2.0	2.0
8	地域活動やボランティア活動に協力し、 よりよい社会作りに参加したい	19.1	41.2	28.1	4.6	2.6
9	自分の将来の夢や仕事について考えて いる	47.0	28.7	17.7	4.9	3.2
10	誰かと対立したとき、互いの立場を尊 重して解決しようとしている	22.0	45.5	24.3	4.6	2.9
11	自分の考えや気持ちを、友達や先生に よく話している	24.9	32.5	25.5	11.3	4.9
12	仲間からしてもらったことで、とても 嬉しかったことがある	68.7	18.6	7.5	2.9	1.7
13	友達からうれしい思いをしているとき、一 緒に考えたり、手助けをしたりしよう と考える	45.0	35.4	12.5	1.4	1.7
14	自分の行動で、人から喜ばれたことが ある	48.1	25.5	17.7	3.2	4.1
15	友達が間違っていたら注意することが できる	16.0	43.5	27.0	7.2	4.1
16	学校で友達と会うのは楽しい	85.8	18.0	12.5	2.3	2.0
17	授業で、友達の意見や先生の話をよく 聴いている	40.6	34.0	18.3	1.2	1.7
18	学校で、楽しみにしている活動がある	52.2	20.9	15.9	4.6	4.1

6. 実践事例についての評価

様々な活動を通して、学級や学年で仲間の活躍を認められるようになるとともに、清掃活動や給食の準備など、班での協力を率先してできる生徒が多くみられるようになった。授業での話し合い活動では、人の話を聞く習慣が身につくようになり、自分の意見と合わせて、よりよい考えを導き出そうとする姿勢が育っている。さらに、人のために活動することへの充実感を得て、自主的にボランティア活動をしている生徒がみられるようになった。一方で、地域行事に参加・協力する生徒も増え、地域の一員としての意識の高まりを感じるとともに、進んで社会に関わろうとする姿勢が育ってきた。

人権教育を推進する上で最も大切なのは、職員の人権に対する意識である。ふだんの生徒への接し方や言動、人権教育に関する知識の共有など、日常的に人権感覚を身につけ、研ぎ澄ましていくことが大切である。また、人権に関する理解は、浸透するまでに時間がとても多くかかるため、継続的に研修を進めていくことが人権教育推進上の鍵となる。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

柏市立柏第四中学校

訪問等の活動を通じて様々人々と触れ合うことで、人権課題に対する理解を一層深め、豊かな人権感覚を育むことの重要さは「第三次とりまとめ」の中でも指摘されている。

本校は、校区にある青少年健全育成推進協議会をはじめとする地域の関係機関の協力を得て、生徒たちが花鉢やクリスマスカードを作って届けるなどのボランティア活動を通して、地域に住む高齢者や障がいのある方との交流を意図的に行っている。これらの取組の背景には、日常的に地域の関係機関との連携を大事にしている学校の姿がある。校内での自己有用感や自己肯定感を育てる授業と併せて、これらの活動により仲間の活躍を認められるようになったり、班での協力を率先してできたりする生徒が多く見られるようになった。また、地域の一員としての意識が高まることにより、進んで社会に関わろうとする生徒も育ってきている等の効果を上げている。